

青色発光ダイオード（LED）の商品化で知られる日亜化学工業（徳島県阿南市）は東京大大学院工学系研究科に
来年度から5年間、寄付講座を開設する。古澤明東大教授
らによる光量子コンピューターの研究開発を支援するのが
主な目的で、寄付総額は2億5000万円。同社と同研究
科が4日発表した。

企業と連携、教材や講師も=プログラミング教育で-文科
省

量子コンピューターは理論上、現在の半導体で電気信号
を制御するコンピューターに比べて計算処理性能が飛躍的に高い。世界的にさまざまな方
式で研究開発が進んでおり、古澤教授らは光のパルスを操作する独自の方式で実現を目指
している。

寄付講座には古澤教授のほか、極めて正確な「光格子時計」を研究する香取秀俊東大教
授らが携わり、光ファイバー網の通信容量の限界を超える研究にも取り組む。

古澤教授は記者会見で「5年後に光量子コンピューター開発のロードマップ（行程表）
ができるようにしたい」と話した。日亜化学の向井孝志研究開発本部長は「学術的な興味
があるので支援する」として、具体的な製品に結び付くかはまだ分からないと説明した。



光量子コンピューターの研究開発に
取り組む寄付講座開設を発表し、握
手する古澤明東大教授（左）と日
亜化学工業の向井孝志研究開発本部長
= 4日午前、東京都文京区

時事通信 2019/03/04-14:36